

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	一般小売店 〔茶〕（販売・ 事務）	来客数の動き	・日中は暑い日が続いているが、例年以上に日本茶を 求めてくる客が増えている。
		百貨店（売場主 任）	それ以外	・中旬までは好調に推移したが、台風の影響で売上が 落ち、まだ回復できていない。
		百貨店（営業担 当）	お客様の様子	・客単価が上がっており、特にスーツ等の紳士服が活 性化している。
		百貨店（売場担 当）	販売量の動き	・台風が直撃したにもかかわらず、リビング用品を除 いて婦人服や紳士服等が前年実績をクリアしており、 前年比103%程度となっている。他店をみると、大型 商業施設が前年実績を超え、高い水準で推移して おり、客単価も上がっている。
		百貨店（営業企 画担当）	販売量の動き	・近郊にショッピングセンターがオープンし、苦戦が 続いているものの、気温の低下で秋物商品が好調で ある。またオールシーズンブランド品のバーゲンなど が健闘し、前年実績を確保できている。
		スーパー（経営 者）	販売量の動き	・単価も値下げも底を打ち、買上点数が安定してい る。
		スーパー（店 長）	来客数の動き	・単価は落ちているが、買上点数が106%で全体的に 伸長した。客単価も伸びており、結果として売上も4 か月連続で前年を上回っている。特に食品は好調で ある。
		スーパー（店 長）	来客数の動き	・来客数が前年比101.6%と好調で、野菜の高騰によ り売上も青果を中心に上がっている。青果の単価が前 年比110%程度になっており、単価の動きが貢献して いる。
		スーパー（店 長）	来客数の動き	・来客数に加え、売上も伸びており好調である。
		スーパー（企画 担当）	販売量の動き	・清涼飲料は前年と比較すると大幅減収であったもの の、おでんや鍋商材の動きが良かった。夕方の欠品防 止や品ぞろえ強化の効果もあり、生鮮商品や日配商品 の動きが活発になるなど、販売数の伸びが顕著で ある。
		衣料品専門店 （店員）	来客数の動き	・今年は例年になく涼しくなるのが早かったので、 ジャケットやカーディガン等の秋物の動きが早かつ た。ただ連休中の台風が影響し、閉店を繰り上げたの は、人出が多かっただけに残念であった。
		衣料品専門店 （総務担当）	単価の動き	・ヤング婦人服の売上が前年比8%増、宝飾品も前年 を上回っている。反面、ミセス婦人服が前年比3% 減、呉服の展示会も前年割れとなった。しかし全体と しては、前年比2%増で推移している。
		家電量販店（経 営者）	競争相手の様子	・同業者の売上や動向等をみると、地上デジタル放送 関連で伸びている。
		家電量販店（企 画担当）	販売量の動き	・家電関係は薄型テレビを中心に良くなっており、単 価も高いため、全体が良くなっている。
		住関連専門店 （店長）	来客数の動き	・来客に若い客が増えた。
	高級レストラン （経営者）	来客数の動き	・台風13号の高潮の被害で3日間休業したが、売上は 前年の反動もあるが、5割ほど増加している。増加の 理由は、県外観光客の増加によるもので、地元客は低 迷している。	
	一般レストラン （経営者）	来客数の動き	・近隣のデパートの増床により、来客数が増えてい る。今までは郊外型のショッピングセンターが客を 引っ張っていたが、少しばん回している。	
	その他飲食〔居 酒屋〕 （店長）	来客数の動き	・県外からのビジネスマンの来客数が急激に増えた。	
	観光型ホテル （経営者）	来客数の動き	・春からこれまで、毎月売上を伸ばすことができ ていたが、台風の影響でキャンセルがあり、大きな打撃 を受けた。	

	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・来客数は前年比10%増となった。台風13号が3連休の中日に直撃し、近場の1泊旅行や日帰りのバス旅行等が中止になったが、その前後で大きく伸びた。海外旅行も直行便が運休となったオーストラリアやブームの去った韓国の需要は減ったが、遅い夏休みの需要が増え、ハワイやグアム等のリゾートは人気となった。
	タクシー運転手	来客数の動き	・全体的に稼働率が良かった。飲酒運転の取締りがあったため、タクシーを利用する客が多かった。
	ゴルフ場（スタッフ）	来客数の動き	・以前は単価を下げて来客数は変わらなかったが、今月は微増ながら動きが見られた。
変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・台風13号の影響で商店街に来る客が減り、その後も回復しなかった。
	商店街（組合職員）	それ以外	・抽選券付き売出しを行った結果、全体的な売上はやや増加した。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街には特定の駐車場がなく、来客数が少ない。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・来客数は一定程度あるが、購入に至る客は増えない。
	商店街（代表者）	競争相手の様子	・商店街の空き店舗の数が少なくなり、出店が増えてきている。しかし景気回復とまでは言えない。
	一般小売店〔青果〕（店長）	お客様の様子	・単価の動きとも連動するが、果物関係のし好品の買上点数、売上が伸び悩んでいる。
	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	来客数の動き	・来客数が少なく、来店頻度も落ちている。今まで週3回くらい来店していた人が週1～2回に減っている。
	百貨店（総務担当）	販売量の動き	・当ビルにテナントで入居している百貨店の売上高は微増であるものの、専門店街のテナントの売上はまだ厳しい状態である。
	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・福岡天神地区では中旬に商業施設のオープンがあったが、来客数は期待ほど伸びなかった。売上は横ばいであったが、単価はアップした。
	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・台風の影響により来客数が減少し、店外催事でも慎重に購入する客が増えた。また、競合店の新規開店を控え環境は一段と厳しくなる。一方、毎年恒例の物産催事は、出かけなくても身近で旅気分が味わえると好評である。
	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・今月は例年より気温が低く推移し、秋冬物が活発に動き、売上は好調である。ただし、昨年のような明確なトレンドアイテムがない。
	百貨店（業務担当）	販売量の動き	・秋の始まりも早く、衣料品の動きに期待したものの、昨年以上に動きが悪い。来客数の減少も下げ止まらない。衣料品の動きが低調だと、連動して雑貨、身の回り品の動きも鈍る。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・青果物の価格高騰がけん引役になり、全体の売上を押し上げてはいるものの、他の食品は厳しい。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・前年は水害の関係があり、今年は営業日数が1日多いにもかかわらず、前年実績をクリアできない状況にある。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が前年を上回らず、バーゲン等の時は若干増えるが、それ以外では来客数が減少している。
	スーパー（総務担当）	お客様の様子	・やや涼しくなっており、衣料品がそこそこの売上を達成しているが、食品、住居用品が思うように売れない。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・例年より早く涼しくなったので、季節に応じた販促で購買意欲が高まった。	
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・来客数は前年比100.5%とほぼ横ばいであるが、客単価が下がっているため、売上は前年を下回っている。必要な商品以外は購入しない傾向が続いている。	
コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・量販店が前年比6.1%増、コンビニエンスストアが4.1%減、ローカルスーパーが前年比11.3%増となった。前年はクリアしているが納入原価の低下と物流コスト増で利益の確保は厳しい。	
衣料品専門店（店員）	単価の動き	・秋物の立ち上がりは良くなっている。秋物なので単価も高くなっており、売上は良い。しかし客の動きをみると、いるものだけを購入する傾向があり、景気が良くなっているとは言えない。	

家電量販店（店員）	来客数の動き	・より新しく、より大きな店舗へ行く傾向が見られる。それに対抗するように、利益を度外視した販売を行っている店舗も見られる。	
乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・ガソリン価格の高騰もあり、軽自動車は良く売れる。しかし普通車の販売台数が少ないため、利益は上がらない。	
自動車備品販売店（従業員）	お客様の様子	・台風災害の影響があり厳しい。	
住関連専門店（経営者）	単価の動き	・台風13号の影響で、地域の連休の売出しが中止になった。店舗も損害があり、来客数も減ったが、プライダル家具に動きがあり、数字的にはまずまずだった。	
その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（統括）	販売量の動き	・燃料油の価格が、高止まりから下落傾向にある。セルフスタンド利用の客が自給油所利用に戻るには時間が掛かるが、出荷量自体はさほど前年と変わらない。	
高級レストラン（専務）	単価の動き	・客が求める料理の単価が上がらず、売上はいまいちである。	
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・今月の前半までは景気が良かったが、後半失速し、人の動きがない。	
観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・今月はすべての部門で前年を大きく下回っている。宿泊やレストランの売上が「長崎さるく博'06」の影響で少しは伸びると期待していたが、全くの期待外れであった。	
都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	宿泊者数、宴会件数ともほぼ前年並みとなっており、レストランイベントがやや好調となっている。	
都市型ホテル（副支配人）	単価の動き	・来客数は単価を下げれば増えるが、単価を通常に戻すと減少する。	
旅行代理店（業務担当）	競争相手の様子	・国内・海外旅行受注状況が自社・他社ともに前年を割っている。	
タクシー運転手	単価の動き	・思ったより客足が伸びず、客単価上がらないため景気的には横ばいである。	
タクシー運転手	お客様の様子	・ゴルフ客の利用は増えたが、昼間の動きは悪く、昼間も500円タクシーに押されている。	
通信会社（業務担当）	来客数の動き	・9月は、キャンペーンもなく、平日・週末ともに来客数が少なく、10月の携帯電話の番号ポータビリティを間近に買い控えが出ている。	
テーマパーク（職員）	来客数の動き	・ゴルフ客が増え、堅調に推移している。	
観光名所（職員）	来客数の動き	・観光施設の入園者数は前年並みで推移している。	
美容室（店長）	単価の動き	・サラリーマンの客が主であり、教育費やローンの支払い等が多くなっているため、少しでも料金を下げた技術をしてほしいという要望が多く、だんだん客単価が下がっている。	
設計事務所（代表取締役）	お客様の様子	・住宅の建設は、業績の良い企業とそうでない企業と二極化している。	
やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・中心街にくる客が急激に減っており、日用雑貨店、商店街内にあったスーパーマーケットもなくなり、通行量もない。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・商店街はアーケードが無いため、雨の日は来街者数が少ない。在庫量も夏物がさばけず、秋物もまだ売れない。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・地域の大型店が増床オープンし、そちらに客が流れ、来客数が減少した。
	商店街（代表者）	それ以外	・売上、来客数等すべてにおいて悪く、経費だけがかさむ。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・台風や長雨で天候が悪かったため客足が伸びなかった。
	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・来客数が大幅に減少している。
	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・昨年の9月は台風により臨時休業しており、今年は営業日数が1日増であった。婦人服売場を中心に大きなモデルもしており、プラス要因は多かったが、前年比95%程度に落ち着いた。
	スーパー（総務担当）	単価の動き	・台風13号の影響もあり、消費購買力に陰りがみられた。全体的には原油高の高騰等が影響し、消費が抑えられている。

		コンビニ（エリア担当・店長）	お客様の様子	・求める商品を見ても考えた挙げ句、購入をしない客が増えている。また、低単価の商品に移っている。衝動買いをする客が減少し続けており、景気回復の兆しはない。
		衣料品専門店	単価の動き	・天気が悪かったこともあり、客足も悪かった。また、買上単価も少なかった。
		乗用車販売店（管理担当）	販売量の動き	・燃料の高騰が影響しており、車の買い控え、金額の高いミニバン等の販売台数が減り、コンパクトカーの販売台数が増えている。台数は100台を切り、売上は減少している。3連休のイベント時に台風が直撃した影響も大きかった。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数の伸びが悪かった。台風もさることながら暑い時期は会社関係の客の動きが鈍く、かなり苦戦した月になった。
		タクシー会社（営業担当）	来客数の動き	・乗客数が少なくなっている。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・新規契約数が減少傾向にある。
		ゴルフ場（支配人）	単価の動き	・集客のため、値引きが頻繁に行われている。
	悪くなっている	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・単価が下がっている。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・もともと9月は売上不振の月ではあるが、台風13号襲来以来、例年以上に商店街から客がいなくなっている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・例年と比べるとグループ客が減ってきている。
		競輪場（職員）	販売量の動き	・発売額が急激に落ち込み始めている。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・売上も上がらず、客の流入もなく、一段と悪い状況である。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・プロイラーの処理、販売は、国内生産の増加、輸入品の増加から厳しい状況である。価格が今までにない低い水準で推移している。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・マンション、ホテルの物件が特に多い。ホテル物件は来年にかけて着工件数も増えており、金利上昇の影響は今のところ出ていない。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・半導体の関係で全国広域からの引き合い、注文が増えている。非常に多忙感はある。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・駐車違反の取り締まりが厳しくなったせいか、立体駐車場の受注及び計画、見積依頼が数件でてきた。
		通信業	受注量や販売量の動き	・3か月前に比べ、受注量がやや上向いてきている。特に携帯電話に関わる設備投資が多くなり、工事量が増している。
		金融業	取引先の様子	・個人が資産運用商品の購入に積極的である。企業の資金需要などもおう盛と感じる。資金の実需があり、手元資金が多いことを望んでいる企業が増えている。
		その他サービス業〔物品リース〕（役員）	受注量や販売量の動き	・台風13号の影響も若干あったが、当社及び取引会社の中間決算という特殊要因を差し引いても、従来にもまして設備投資需要が活発化し、久々の契約大幅増となった。
	変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・卵がここにきて需要が伸び、鶏肉も涼しくなってきたせいもあり、少しずつ良くなっている。全体的には輸入物の増加、鳥インフルエンザ等の不安要素から、消費の落ち込みもある。
		繊維工業（営業担当）	それ以外	・賃金の上昇や原油高のための資材関係等が上昇しているが、工賃は一向に上がらないため経営者としては厳しい状況である。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注関係もあまり思わしくなく、販売数量、受注関係も前年より毎月1割ずつ落ちている状況である。
		窯業・土石製品製造業（取締役）	競争相手の様子	・同業種や競争相手をみると、中堅企業、地場産業の決算内容は若干良い。ただし、金利上昇、ガソリンの値上げ等の懸念材料はある。
		一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・先月に引き続き輸送機関連企業の客からの引き合いが多い。

	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・電子部品関連の大手、中堅企業におけるリードフレーム、コネクタ、その他の金型関連事業の動きは非常に活発であった。反面、精密機械加工の動きは変わらない。	
	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・荷動きが悪い状態がずっと続いている。	
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・資金需要が低迷している。	
	金融業（営業職渉外係）	取引先の様子	・原油価格の高騰が落ち着き、個人消費への影響が軽減されつつあり、一部の業種に明るい兆しが見え始めた。しかし輸送業、建設業の業界環境は依然、芳しくない。	
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・生命保険料に関して、現状のまま増やそうということもなく、また運用の方にもまわさない消費者が多い。	
	新聞社（広告）	取引先の様子	・取引先である北九州地区の百貨店及び流通全般の売上が悪い。	
	経営コンサルタント	取引先の様子	・酒類販売量販店は個々には売上不振が続いている。ようやく連携しながら売上を高め、大量仕入れで利益の確保を模索し始めている。	
	経営コンサルタント	取引先の様子	・関係先の様子は、順調に推移している。しかし台風の影響で2日ほど営業できず、小売関係やサービス関係で売上が上がらず、若干マイナスになっている。	
	経営コンサルタント	受注価格や販売価格の動き	・受注価格の単価が落ちている。	
	やや悪くなっている	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は改善してきたが、まだ良くなったという状況ではない。
	悪くなっている	-	-	
雇用 関連	良くなっている	民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・求人数の増加に加え、派遣社員を正社員にしたいという要望が顕在化してきた。
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・派遣件数は順調に増加傾向にある。長期で前年比15ポイントほど増加傾向にある。秋のキャンペーン、大型施設の開店もあり、短期も前年比15ポイントほど増加している。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・9月決算会社より下期人員計画で増員を図る企業が増えている。大型のコールセンターも雇用助成金を取得するために規定数の雇用を確保する動きもあり、求人数は増加している。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・先日の台風17号被害により、損害保険会社からの派遣依頼が多い。また、携帯電話の番号ポータビリティ導入により各社が販促に力をいれているため、キャンペーン要員の需要が活発である。
		職業安定所（職員）	それ以外	・求人倍率は6月に10年3か月ぶりに1倍台になり、3か月連続で1倍台を記録している。九州ではトップであるが、全国平均は下回っている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規学校卒業予定者の採用意欲が高く、また中途での正社員採用予定も増加した。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・8月の新規求人数が前月比28.2ポイント増、前年比でも49.6ポイント増となっている。ただ内容は非正規職員の求人が多くなっている。
変わらない		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・大学・高校など新卒者への求人が増えている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・IT、半導体関連製造業の労働力不足感が続いている。また雇用の改善の伴い、求職者で職業訓練希望者数が減少している。
		学校〔大学〕（就職担当者）	求人数の動き	・3か月前も、現在と同様に景気が上向き、求人数も増加傾向に思えるが、3か月前よりも更に上向きとまでは言えない。
やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・ここ数か月間の動きとして新規求人数、新規求職者数ともに減少傾向にあり、特に企業側の新規雇用についての動きがあまり大きくない。	
悪くなっている	-	-	-	